



明日のみずなみを考える！

水とみどりと安心安全な田舎都市「みずなみ」をどう生かすか!?

(写真提供：瑞浪市)

明けましておめでとうございます。新しい年を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

リオオリンピックでの日本選手の活躍やインバウンドの増加など、明るいニュースも聞かれた昨年でしたが、全国的に人口減少が見込まれる中、地方都市では、まちの活性化や地域コミュニティの維持など、様々な課題もあります。

現在瑞浪市が取り組んでいる将来都市像「幸せ実感都市みずなみ」に向けて、住みよい・住み続けたい・魅力的なまちづくりのために、出来ることは何か。今回は、各業界で活躍する皆さんに、それぞれの分野・立場からこれからの瑞浪を語っていただく特集をいたしました。

6名の皆様の「明日の瑞浪・未来の瑞浪」に向けた活動や思いをここにご紹介いたします。

商店街を取り巻く環境は、店主の高齢化や後継者不足、空き店舗の増加などにより、未だ厳しい環境が続いています。このような困難に直面しながらも、商店街は、地域住民のニーズに合わせた品揃えや接客サービスの向上を目指すだけでなく、子育て世代や高齢者をサポートし、地域コミ



作り手よし 買い手よし 世間よしの
「三方よし」のみずなみまちづくりを
瑞浪市商店街連合会 会長 安藤 良一

ユニティの拠点としての機能を持つことも期待されています。当連合会では、昨年より、商店街の各店が選り抜きの百円商品とサービスを留意し、商店街全体をひとつの百円ショップに見立てる「みずなみ百縁商店街」を年3回開催しております。単に来街者を増やすことだけを目的にした一過性のイベントではなく、来店者を増やす新たな取り組みとしてひとつの活路を見出だすことが出来

ました。今後も持続性のある事業として、個店の魅力向上や集客力向上に努めていきます。平成29年度は、更に次の取り組みとして「まちゼミ」の実施を予定しております。まちゼミとは商店街の店主が講師となり、プロならではの専門的な知識や情報を地域住民に提供するゼミナールのことです。①お客様に満足・感動していただき、②お店にファンを作り、③商店街に人を呼び込む「三方よし」の賑わい創出事業です。この理念を各店舗が共有し、継続していくことが、地域に元気と活力を与える源に繋がっ



▲商店街に賑わいを呼び込む百縁商店街

ていくと考えます。「まちゼミ」の詳細については、チラシや商工会議所ニュース等で随時ご案内いたします。どうぞご期待ください。これからも、商人としての誇りを持ち、真に地域から求められる商店街の実現に向けて積極的に取り組んでまいります。

9月には、3年に1度の「国際陶磁器フェスティバル」が多治見市を中心に開催されます。東濃3市が協力し

て行く一大イベントです。業界はもとより、一般の人々が参加出来る催しが計画されています。同じ頃には「第5回みずなみ陶器まつり」も開催されます。昨年は市民広場で開催し、天候にも恵まれ大盛況だっただけに、年々楽しみな行事になってきました。なんといつても、陶器販売はお祭りに良く似合い、活気ある楽しい雰囲気を感じます。今年も是非お誘いあわせの上お出かけください。

このように、次から次へ本年は行事が続きます。七夕まつりの「クレイオブジェコンテスト」をはじめとする行事でも、工業協同組合と手と手を取り合って、業界の団結を大事に合同で行動していきたいと思っております。

明日の瑞浪を語るるとき、組合員の皆さんと一歩一歩しっかりと地に足を踏みしめ、地場産業である陶磁器を守っていききたいと思っております。充実した1年にするために本年もよろしくお願いたします。



太古のロマンあふれる化石のまち
「みずなみ」を発信！
瑞浪市化石博物館 学芸員 安藤 佑介

「瑞浪の化石」は、瑞浪市とその周辺のみならず、化石が好きな方々の間では有名です。特に、化石を地層から直接採集できる場所があるのは中部地方では瑞浪市と福井県勝山市くらいで、ユニークな場所なのです。しかし、瑞浪市から見つかる化

石はネームバリューのある「恐竜」化石ではないので、恐竜化石が多産する勝山市のような化石を利用したまちづくりは行われていないのが現状です。では、瑞浪市の化石をまちづくりに活用できないのでしょうか？一つの可能性はジオパーク（火山など地質学的な名所を教育や観光などに生かした公園）です。ジオパークで鍵となるのは、地質的な

「モノ」とそれを紹介・活用する「ヒト」です。瑞浪市は、化石やそれを学べる博物館や野外学習地などモノは充実していますが、それを活用するヒトが不足しています。各地のジオパークでは、官民一体となって地質的な名所を紹介・解説する地元ガイドの育成に力をかけています。瑞浪には古くから化石が身近にあり、化石の名所としての認識が低いかもしれませんが、今後は自然遺産として、観光資源として市民の皆さんが発信する必要もあると思えます。



▲身近な化石の魅力を知りたい！

将来「化石のまち・瑞浪」を生かしていくには、私たち学芸員が講座などで瑞浪の化石を発信していくことはもちろんのこと、地元ガイドのような市民の皆さんの協力が必要不可欠であり、将来的に協力体制を構築するためのシステム作りが必要だと思えます。



みずなみ焼の殿堂
「ちやわん屋みずなみ」は4月改装オープン
瑞浪陶磁器卸商業協同組合 理事長 小島 史昭

新年明けましておめでとうございます。平成29年、瑞浪陶磁器卸商業協同組合は、大きな行事を複数控えております。組合員の皆様には、なお一層のご協力・ご理解をお願いしたいと思っております。また、市民の皆様には、この機会に瑞浪の地場産業・陶磁器をより知っていただきたく思い、今年の当組合の活動内容を以下にご紹介いたします。

まず、4月には2年越しに待望の「ちやわん屋みずなみ」が振興センター跡に再オープンいたします。組合が運営する瑞浪に唯一の陶器売り場で、市民の要望に応え、立派なお店をスタートしたいと思っております。みずなみ焼、地場産業の発信地として業界のシンボルになれることを望んでいます。

